

四国民放クラブだより

四国民放クラブ役員会開催

長田 修身(RKC)
1月14日(火)西日本放送で「四国民放クラブ役員会」が開かれ、4県の民放クラブ役員、四国放送事務方、西日本放送事務方の計14人が西日本放送役員会議室に集まった。

会議は宮島理事長(JRT)の進行で進められ、「四国民放クラブ総会」をいつ、どこで、議案はなどを話し合った。佐藤会長(JRT)の挨拶で改めて知ったが、今年には四国民放クラブ設立20年になるとのこと。20周年冠事業としての提案も行われた。

前回の役員会、総会でもテーマとなった会員減少に対する方策として、特に女性会員と民放クラブに加入していない多くの方々へ声を掛けをして、勧誘の一助になるよう「食事を楽しむ会(仮称)」の要綱・会則の練り直したものを付けて総会へ再提案する。その他「パソコンクラブ」「写真部会」「eスポーツクラブ」「麻雀大会」なども考えてみてはということ。オリンピックク年に何か出来ないか

との意見も出された。

60歳定年ならその後もOKだが、65歳はかなり燃え尽きての定年になるのでは。そこから民放クラブで頑張つて!や、更に定年70歳になればなかなか厳しいものとなるのではないだろうかなどの話も

四国はテレビ地上波を持つ民間放送が徳島1、香川3、愛媛4、高知3あるが、民放クラブに入っている放送局は徳島・四国放送、香川・西日本放送、愛媛・南海放送、高知・高知放送、テレビ高知の計5局。会員増の願いもあり、3県で未加入社にアプローチを続けているが、会社としてのバックアップの必要性から、いい返事が得られない。そんな中、高知は未加入だったさんさんテレビが参加するとの明るいニュースも報告された。

四国地区は2年ごとに事務局が移っていく慣例があり、2年前高知から移った徳島の事務局が、今年4月香川に移る。よって佐藤会長、宮島理事長も香川にバトンタッチ。事務局役員案に氏名が入ったところもあり未定もありで4月

の高松での総会で決定する。長田が担当していた編集委員はJRTが担当する。



西日本放送での役員会

時代の流れ、フェリー休止

香川県高松市と岡山県玉野市を結ぶ宇高航路で唯一運航していた高松に本社がある四国急行フェリーが、同航路での運航を昨年12月16日から休止した。瀬戸大橋の料金値下げなどで利用者が減少し、収益が悪化したためとみられる。

宇野港と高松港を結ぶ同航路は1910年(明治43年)、旧国鉄の宇高連絡船の就航が始まり。その後フェリーも運航するようになり、1988年の瀬戸大橋開通前には、フェリーだけで3社が平日に1日計約150往復便を運航し、本州と四国の通勤・通学の足、物流ルートとして栄えた。瀬戸大橋

の開通に伴い、宇高連絡船は廃止。利用客が減ったフェリーも2009年に1社、2012年に更に1社が撤退し、四国急行フェリー1社のみが運航で1日5往復だけになっていた。

旧国鉄の宇高連絡船時代には1955年(昭和30年)、連絡船『紫雲丸』の沈没事故も起き、愛媛、高知、広島、島根の修学旅行生を含む168人が死亡する悲劇もあった。

団塊世代の私は、大学時代、高松から宇野へ渡る高松港棧橋で、集団就職らしい私より若い人たちが、テープでつながった見送りの肉親と船が離れて、ちぎれたテープが海面に漂う光景を目にしたこともあった。約1時間、連絡船デッキで海風に吹かれながら、うどんを食べ、港に着く前には通路、階段に並んで、船から降りると、乗る列車の座席取りにホームを走ったりした思い出も。四国急行フェリーは高松と宇野航路フェリー事業を休止としているが、再開には多くの困難があるのでは。かつて本州・四国間の大動脈だった航路も、時代の流れで109年の歴史に幕を下ろすのだろうか。